

11. 消化管、肝胆膵の疾患

文献

Kotani N, Hashimoto H, Sato Y, et al. Preoperative intradermal acupuncture reduces postoperative pain, nausea and vomiting, analgesic requirement, and sympathoadrenal responses *Anesthesiology* 2001; 95(2): 349-56. CENTRAL ID: CN-00350065, PMID: 11506105

1. 目的

腹部手術後の疼痛、嘔気嘔吐に対する皮内鍼の効果の評価

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (封筒法) (RCT-envelope)

3. セッティング

弘前大学医学部麻酔科、青森、日本

4. 参加者

上腹部手術を受けた患者 107 名、下腹部手術を受けた患者 84 名

5. 介入

上腹部手術群：

Arm 1: 皮内鍼治療群 (48 名)。両側の肝兪、胆兪、脾兪、胃兪、三焦兪、腎兪、気海兪 (BL18-24) に皮内鍼 (0.16×5mm) を皮膚に水平に刺入後絆創膏で固定し、術後 4 日まで留置。

Arm 2: コントロール群 (50 名)。同部位に皮内鍼を置き、刺入せず絆創膏で固定し、術後 4 日まで留置。

下腹部手術群：

Arm 1: 皮内鍼治療群 (38 名)。両側の脾兪、胃兪、三焦兪、腎兪、気海兪、大腸兪、関元兪 (BL20-26) に皮内鍼 (0.16×5mm) を皮膚に水平に刺入後、絆創膏で固定し、術後 4 日まで留置。

Arm 2: コントロール群 (39 名)。同部位に皮内鍼を置き刺入せず絆創膏で固定し、術後 4 日まで留置。

上腹部手術群の 9 名、下腹部手術群の 5 名は術後合併症により解析から除外した。

6. 主なアウトカム評価項目

術後痛 (創部痛と深部内臓痛)、術後の嘔気嘔吐などに対する口頭式評価スケール (0, 1, 2, 3 の 4 段階評価：低い程痛みが少ない)、1 日あたりの経静脈モルヒネ使用量、血漿副腎ホルモン濃度 (コルチゾール、アドレナリン、ノルアドレナリン、ドーパミン)

7. 主な結果

上腹部手術群、下腹部手術群いずれにおいても、術後痛は Arm 1 は Arm 2 に比較して有意に軽減した ($P < 0.05$)。モルヒネ使用量は時間経過につれて有意に減少した ($P < 0.0001$)。また、術後 1~4 日における 1 日当たりのモルヒネ使用量は、Arm 1 は Arm 2 に比較して最大 50% 有意に減少した ($P < 0.01$)。術後の嘔気嘔吐の頻度は、Arm 2 に比較して Arm 1 で最大 20-30% 有意に減少した (それぞれ $P < 0.05$ 、 $P < 0.01$)。また、血漿コルチゾール濃度、血漿エピネフリン濃度は、術後当日、術後第 1 日において、Arm 2 に比較して Arm 1 で最大 30-50% 低かった ($P < 0.01$)。

8. 結論

術前の皮内鍼留置は、上腹部および下腹部術後の疼痛、嘔気嘔吐を抑制する。

9. 鍼灸学的言及

著者らは、鍼鎮痛、鍼による嘔気嘔吐の抑制には、術前から刺激を与えることが重要であること、また、嘔気嘔吐の抑制には内関 (PC6) よりも膀胱経 (胆経) の刺激の方が有用である可能性があることについて言及している。

10. 論文中の安全性評価

記載なし。

11. Abstractor のコメント

非常に良くデザインされたマスク化試験 (患者および評価者) で、結果と結論の信頼性も高い。患者の振り分けについてのフローチャート、サンプルサイズの計算、ITT 解析、マスキングの成功の有無について報告などあればさらに完成度が高くなると思われる。

12. Abstractor

若山育郎 2011.9.9